



リサイクルショップやアンティークショップ、蚤の市に行くのが好きで、イベントがあるときは掘り出し物がないか探しています。ときどき何十年も前のHARIO製品が見つかったりして、おもしろいのです。数年前に有楽町で行われた大江戸骨董市で、お花を閉じ込めた琥珀のようなベルトにひとめぼれして、手巻き時計を買いました。文字盤のブランド名には、「Ч а й к а (チャイカ)」と書かれており、調べたところ旧ソ連時代に作られたものだとわかりました。手巻き時計は毎日同じ時間にゼンマイを巻くと、時間のズレが少なくなります。私が面倒を見てあげなければと思うととても愛おしく思えます。

大事に使っていたのですが、あるとき寿命が来たのか止まってしまいました。根津駅前に時計屋さんがあるのを思い出し、持ち込んで中を診てもらいました。後日話を聞きにいくと、「手巻き時計として直すには、かなり小さいパーツを仕入れなきゃいけないからかなり高くなるよ。」と言われて断念しました。愛着もあるので、次の日もう一度時計屋さんにご相談したところ、電池式に変えることならできるとのことでした。

2週間後中身がまるごと入れ替わった時計を受け取りました。元々入っていた機械も受け取りましたが、ゼンマイがとても弱々しく、よく数十年も持ちこたえたなあと思いました。これからはしっかりメンテナンスして、私がおばあちゃんになったら手放して、また私のように長く大切にしてくれる人が現れたらいいなと思います。



- チャイカについて -

チャイカという会社の名前は、最初の女性宇宙飛行士であるワレンチナ・テレシコワが、打上げ後の«Я - Ч а й к а» (ヤー・チャイカ、「こちらチャイカ」の意) という応答が由来しているそうです。彼女を称えて、彼女の顔が入った切手も発行されています。